# ENAGEED活用事例

聖望学園中学校

社会問題に
興味をもたせる
授業の設計

ENAGEED

# 社会問題に興味を持たせる授業の設計

聖望学園中学校 × ENAGEED

## 聖望学園中学校とは

埼玉県にある私立の中高一貫校。1学年40〜50名の生徒が在籍しており、世界に通用する人材の育成を目指したグローバル教育や英語教育、ICT教育に力を入れている。

| | |
|---|---|
| **取り組みの背景** | **社会問題について興味を持つ機会がなかった**<br>社会や自分に対して足りない部分を見つけてその問題に対してアプローチし、成果を出す力を身につけることが一般教養だと考えている。しかし、本校では社会で起きている問題について考えるきっかけが少なく、考えたとしても、生徒が自分からでアプローチをすることができなかった。<br>総合的な学習の時間がうまく活用できていなかったこともあり、総合的な学習の時間を通じて社会に出たときに役に立つ一般教養を生徒に身につけさせたいと考えた。 |
| **取り組み** | **社会問題に興味を持たせるために、自分でできるアプローチを考えさせる授業設計**<br>総合的な学習の時間を通して、社会問題に触れるだけでなく、自分でどのようにアプローチできるかを考えてもらうことで、自分でも社会問題に対して力になれるかも知れないと思ってもらえるようにした。<br>例えば、vol.2 Lesson01の「捉え方を変える」という授業では、現在社会問題になっている「コロナ」をテーマに、捉え方を変えるだけで、ネガティブな印象ばかりあるコロナも、ポジティブに変換することができるということを生徒に理解してもらった。<br>大きな社会問題も自分自身で変化を起こせるということを生徒に体験させることで、今まで自分ごとにできなかった社会問題に興味を持ってもらうきっかけを授業の中で作った。 |
| **成果** | 生徒が、社会問題に対する解決アイデアを実践する姿が見られた。<br>具体的には文化祭で、ゴミのポイ捨て問題をテーマで、ゴミ箱の分別をキャラクター投票と掛け合わせることで促したり、無駄をなくすというテーマで、身近に捨てられている木材の割り箸やアイスの棒を使用し学校の模型を作ったチームも見られた。<br>今までは、社会問題を提示しても興味を示す生徒は少なかったが、自分でも何かできると感じることができるようになってからは生徒から積極的に実践する姿が見られるようになった。 |

# 社会問題を自分ごととして捉え、アプローチの方法を知る

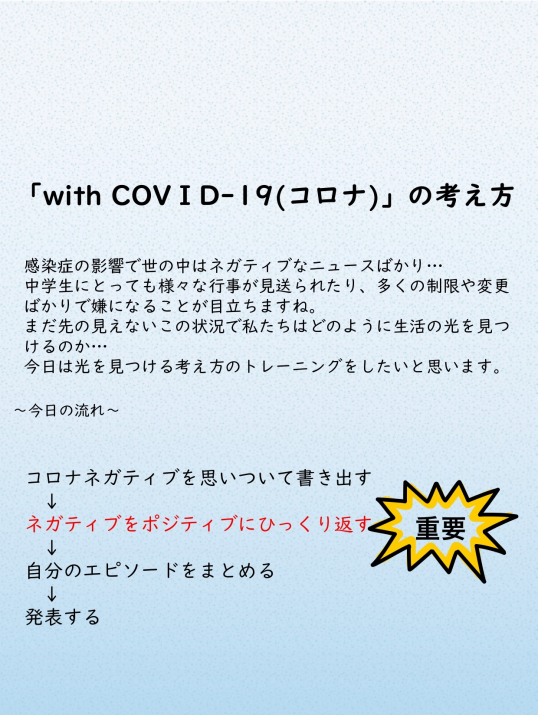
聖望学園中学校 × ENAGEED

## コロナの時代をポジティブに！

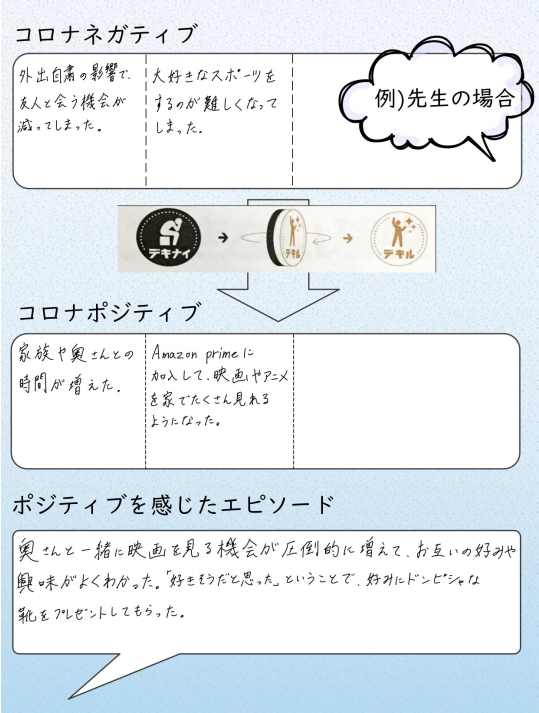
身近にあるネガティブをポジティブに変える実践としてコロナによって発生するネガティブな事象をポジティブに捉えるワークを実施した。
大きな社会問題でも、自分で変化を起こせるということを生徒に体験させることで、社会問題に興味を持ってもらうきっかけを授業の中で作った。

### 回答しやすくするための教員側の工夫

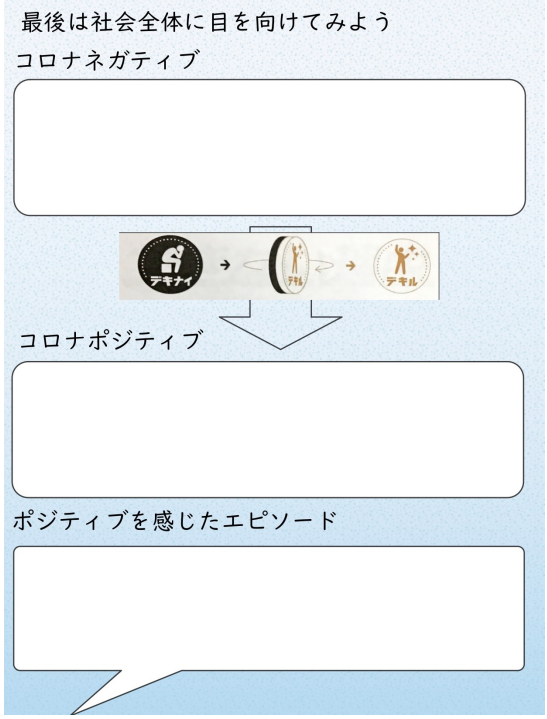
生徒が理解しやすいように全体像を共有した後、
**自身で作成したワークの回答例を共有した。**
教員の生活を例に出したことで生徒も興味を持って話を聞いていた。




ワークの全体像を理解する




先生の例を聞いてイメージをわかせる

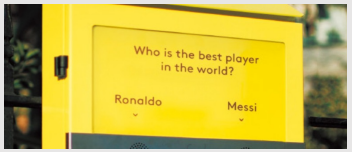



自分を軸に考えた後、社会に目を向ける

# 文化祭で社会問題を解決するアイデアを実践！

ENAGEEDの授業の中で、「タバコのポイ捨て問題を解決するためにゴミ箱を投票形式にして置いておくことでゴミを捨てたくなるBallot Binという仕組みを作った」という世界の問題解決アイデアを紹介した。
そこから生徒が**「ENAGEEDで学んだゴミのポイ捨て解決アイデアを利用して、何かできないかな？」というアイデアを自発的に出し、文化祭で投票式のゴミ箱を設置する運びとなった。**文化祭では聖望学園のロゴマーク投票として、ロゴマークを貼ったゴミ箱を設置した。
その他にも、無駄をなくすというテーマで、身近に捨てられている木材の割り箸やアイスの棒を使用し、学校の模型を作ったチームも見られた。
今までは、社会問題を提示しても興味を示す生徒は少なかったが、自分でも何かできると感じることができるようになってからは生徒から積極的に実践する姿が見られるようになった。

▲文化祭で設置した投票ゴミ箱。
学校のロゴマークを投票の題材とした。

▲割り箸やアイスの棒で製作した学校の模型。
「無駄をなくす」がテーマ。

タバコのゴミ問題を投票形式のゴミ箱で解決する「Ballot Bin」。